



2024年6月19日

第 3533 回例会 (今年度 39 回)

例会場: 岡崎ニューグランドホテル

会員卓話 「私とロータリー」 浅井歯科医院 院長 浅井 章さん

新会員卓話 「自己紹介」 人間環境大学附属岡崎高等学校 副校長兼事務長 横山 博文さん

前回の会長挨拶

6月 は親睦活動月間です。

今月号のロータリーの友の特集記事の中で、1921年、ロータリー年次大会でロータリーの創始者、ポール・ハリスはスコットランド・エディンバラの年次大会で「ロータリーの原動力は親睦です」と述べたと記載されています。ロータリー活動の二本柱は奉仕と親睦と言われます。多様な価値観を持った人が集まるロータリーですが、親睦を図ることで、ベクトルを合わせ奉仕のエネルギーに変えることができるのだと思います。

今年度はコロナ禍以前の形に親睦活動を戻すことも大きなテーマのひとつでした。親睦活動委員会の皆さまにはご苦労をおかけしましたが、様々な活動を通して会員の皆さまにロータリーライフを楽しんでいただければ幸いです。

クラブ内の親睦活動の大切さは言うまでもありませんが、市内、分区内、地区内、あるいは世界のロータリアンとの親睦もとても意義のあるものではないかと感じます。クラブ内外の様々な活動に参加して、交流を深めることで、素晴らしい出会いやインスピレーションが得られると思います。

ロータリーの友の記事にもありましたが、RIにはゴルフ、スキー、ワイン、テニス、マラソンなど100以上の公認親睦グループがあるそうです。世界のロータリアンと趣味を通して交流し親睦を図る機会になりますので、ご興味のある方はマイロータリーかロータリーの友の特集記事の中のQRコードから調べていただくといろいろな発見があると思います。ゴルフの親睦グループのIGFR (International Golfing Fellowship of Rotarians) を調べてみると、毎年、名門コースで世界大会をやっています。昨年は2023年ライダーカップが開催されたイタリア、ローマのマルコ・シオーネゴルフ&カントリークラブで行われ、今年9月に2021年全米オープンの舞台となったサンディエゴのトリーパインズゴルフクラブで開催されるそうです。昔、父が城南ロータリーのメンバーだった頃に楽しみにして毎年参加していましたが、父が明日から開催される全米オープン会場のノースカロライナのピンハーストNo.2に行ってきたと喜んでいたので思い出します。私もいつかエントリーして世界の名門コースで世界中のロータリアンとプレーしてみたいと思います。

前回の卓話

会員卓話

中瀬 高子さん「2024ロータリー国際大会「シンガポール大会」
視察旅行記」

今日は2024年ロータリー国際大会「シンガポール大会」視察旅行記と題し、5月24日から28日まで行ってきたロータリー国際大会の様子をお伝えする。時間も限られているので早速スライドを使って進めたい。



今回の視察旅行は「中部国際空港セントレア」からの便と「羽田空港」からの便、更に途中合流の方、と様々な行程の方が参加され総勢17名となった。私はセントレアからの便であったが、当日天気も良く、6時間半かけての安定した飛行で無事シンガポールチャンギ空港に到着した。写真の機内食はエコノミークラスのもので、ビジネスクラスのお食事はもっと良いものだったんだろうと思っている。

チャンギ空港に到着するとボルボの大型バスと供に今回の旅行を最初から最後までアテンドして下さったメルディンさんが出迎えてくれた。シンガポールは日中大変蒸し暑く、街中を少し歩くだけで空気がまとわりつく感じであった。その分、建物内の冷房との差が激しいのだがそれが癖になるような感じでもあった。空港からすぐに宿泊先であるフラトンベイホテルへ向かった。こちらの写真はフラトンベイホテルで皆さん揃っての写真とマリーナベイサンズを見て喜んでいる私と矢野さん、そしてJTB辻井さんの会社の方で三井かなこさんの写真である。

今回の旅行では大半の会員の方がフラトンベイホテルを利用されており、少し部屋の様子を見せていただいた。とても広々としていて重厚感あふれるホテルでお部屋の中にはウェルカムフルーツも用意されていた。こちらのホテルでは朝食がビュッフェスタイルでとても美味しいとのことで、別のホテル宿泊だった矢野さんと私も特別に一日だけビュッフェ朝食をいただいた。ありとあらゆるメニューが揃っていて、お勧めのスイカジュースもパンダンケーキという緑色のパンもとても美味しかった。

私と矢野さんが利用したホテルはこちらの「21カーペンターズホテル」である。マリオットヴォンヴォイグループのホテルで今回はポイントを使つての宿泊にした。ホテルの屋上プールはとても美しい写真が撮れ、とても広々したプールに見えるが、こちらのテーブルくらいの幅なのですれ違い不可、一方通行のプールだが、写真は美しくとれた。プールの向こうにはマリーナベイサンズも見えた。ルームキーは木で出来たペラペラのもので、どこに鍵の要素が含まれているのか謎めいたものであった。

夕飯はブリューワークスという川沿いにあるカジュアルレストランで、店内からマリーナベイサンズの噴水ショーを見ながら食事をいただけるとのことビールのおつまみを中心とした食事であった。ビールが一杯19\$とのことで日本円にすると2280円。皆さん、あまりいつものように召し上がっていなかった気がした。

ここから2日目。翌日はリバークルーズでシンガポールの主要スポットをバンボートの形の船にのりクラクキーというカラフルな街並みの乗り場からボートキーという新旧の建築物が混在するエリアを通り抜け、マーライオンを正面から見て、フラトンベイホテルを川の上から眺めるという貴重な体験をしながらマリーナベイサンズ前まで40分程度のクルーズであった。

マリーナベイサンズに到着し、ロータリー国際大会の会場へ向かった。何とか良い場所で記念撮影をし、丹羽さんが臨機応変にその場にあった看板を持ってくださり、楽しい写真が取れた。国際大会だけあって各国の皆さん思い思いの準備をされていて全身ロータリーの服で決めてきている方やチームでTシャツなど揃えて参加されている方、国旗を掲げている方など見ているだけでワクワクした。

その後、マリーナベイサンズ・ルフトップバーにてランチをいただいた。ここからはシンガポール海峡や光り輝くガーデンズ・バイ・ザ・ベイを一望できる天空の楽園と言われているレストランである。お国柄、突然のスコールもあつたりしたがすぐに晴れて美しい風景とともに美味しい食事をいただいた。フルーツ盛りも見事だったので動画にしてみた。開放的な空間だからか、皆さんとっても仲良く写真撮影されていたのが印象的であった。

食事の後、希望者のみでリトルインディアへ向かった。そこにはインドの方の日常生活が垣間見れる街並みがあり、地元の方が利用するスーパーに案内してもらった。週末ということもあって家族連れの人の方々が大量の買い物をされていた。ここではいろんな角度からの路地の写真が撮れた。夕飯はガバナナイトに向かう人と、レストランへ向かう人で分かれての行動である。

こちらはその夜のガバナナイトに参加された方々の写真である。2760地区の方々が一同に会し、楽しい時間を過ごされた。緑の法被をお召になっている方は豊田ロータリーの方である。

私はミシュランレストランの「ガリバルディ」にてイタリアン料理をいただいた。雰囲気も良く、素材の味を生かしたやさしいイタリアン料理であった。一つ一つがとても美味しかった。

この日は更に夜は続き、ガバナーナイトに参加された方とガリバルディに参加した人がフラトンベイホテルのルーフトップバーに集った。こちらのバーからの眺めは最高で、隣に大きなプールもあった。軽快な音楽が流れるなか、お酒が飲めない私もスイカジュースのような「シンガポールスリング」というカクテルをいただいた。ストローが刺さっていたので勢いよく飲んでみたところ、ジンの味がきつくてすぐに酔っぱらってしまい、矢野さんに大変ご迷惑をおかけしてしまった。お酒には参ったが大変楽しい夜であった。

3日目の朝は同前会長と谷幹事は日本人朝食会へ参加された。RI会長のゴードン R. マッキナリーやRI会長エレクトのステファニーエーアーチック氏のスピーチを聞かれたとのことであった。

こちらは私が行けなかったカトン地区での写真である。カトン地区とは15世紀後半に移住してきた中華系移民の子孫の文化が残っているとのことで、とてもカラフルで可愛らしい建物が沢山あるようだ。こちらの通りにはパステルカラーのかわいい建物がずらりと並んでいた。彫刻や花柄のタイルの装飾などが細かいところまで施されているとのこと。私も行ってみたかった。

さて、ここから今回のメインテーマである「ロータリー世界大会の本会議」の様子である。まず入るにあたってとてもセキュリティが厳しく、持ち物検査や身体チェックもあった。こちらの写真は同行した矢野さんが厳しいチェックを受けている様子である。鞆の中のポーチのファスナーまで開けさせられたようだ。朝食会に参加された同前会長と谷幹事が席を確保してくださったのでとても良い席で参加することができた。30000人が参加している中で偶然フィリピンのセブロータリー会長にお会いできてとてもラッキーであった。

当たり前ながら世界各国の方が集まるので、会場は大変賑やかでなかなかまとまらないと思われた中、「ABBA:ダンシングクイーン」が流れるとあつという間に会場が一つになり、皆さんノリノリになったのだがその中でもこの赤い旗の台湾の方達の団結力がすごくて、圧倒的に目立っていた。「龍の舞」は旧正月を祝う伝統的なイベントの一つのようで、とても華やかであった。

そして「点鐘」世界各国の集まりということで、アルファベットAから順番に国旗が入場した。こちらは日本の様子である。次に今は国同士は争っているものの、この国際ロータリーをきっかけに親交を深めた2人の女性の話などセッションがいろいろ続いた。残念ながら時間の関係もあって最後まで参加はできなかったが、世界中のロータリアンと同じ空間にいられたことに大変刺激を受けたし、こういった機会をいただけたこと大変感謝している。

そのあと、皆さんと合流し、マリーナベイサンズスカイパーク展望デッキへ向かったが、入るのに蒸し暑い中の大行列で残念ながら私は登ることを断念した。

こちらは実際に展望デッキへ行かれたかたが撮影した風景である。有名な屋上プール、インフィニティプールも見られたようである。

お昼ごはんは、シンガポールの名物料理である「海南（ハイナン）チキンライス」は、丸ごと茹でた鶏肉と、鶏だしスープで炊いたご飯をセットにした絶品料理。ホワイト・ローズ・カフェというヨークホテル内にあるカフェレストランでいただいた。

ランチの後は皆さんで「ガーデンズザベイ」という広大な植物園に行った。こちらの滝、大変高い場所から見る事ができた。色とりどりの花が見事に咲いていたが、蒸し暑いシンガポールの植物園ということでとても暑いかと思っていたが、完全室内でエアコンが効いていたし、雨も関係なく見られて快適に過ごす事ができた。

夜はレイガーデンというシンガポールで一番有名な中華のお店に伺い、野田さんの乾杯挨拶で始まった。北京ダックもおいしくいただいた。とにかくお料理のボリュームがすごかった。

そしていよいよ最終日。午前中は自由行動。午後はなかなか予約が取れないことで有名なラッフルズホテルのアフタヌーンティをいただいた。さすがラッフルズホテルだけあって紅茶も本格的でサンドウィッチやスコーン、ケーキなどボリュームもあってとても美味しかった。私は丹羽さんご夫婦、野田さんご夫婦、矢野さんと同じテーブルで楽しく過ごさせていただいた。

飛行機出発前の食事、クラークキーにある「ジャンボシーフード」で「チリクラブ」というカニ料理をいただいた。カニの身も食べるのだが、カニの旨味たっぷりのソースを、揚げパンや炒飯につけて食べた。こちらもとても美味しかった。最後、谷幹事の挨拶で締めさせていただいた。

シンガポールを夜中に出発でしたのですっきり寝てしまったのだがしっかり機内食はいただいた。真ん中の写真は同前さんのお嬢さんが中部セントレア空港到着のときに麻薬捜査犬に協力してほしいと頼まれて結構ドキドキしながら見守ったが、無事に協力を終えた証のシールを受け取ったところである。

こちらの写真は番外編として一人で行ったカヤトーストという朝食や矢野さんといった「バクテイ」というシンガポールの有名な料理、バチャコーヒーでの美味しいコーヒー、そして石川勝敏さんが勝負運をつけるために噴水の動画を撮っているところである（結局、ボタンを押し間違えて動画を撮れていなかったようだ）

今回本当に沢山の写真があり、どの写真を使ったらよいかとても迷ったが、その中でも載せきれなかった集合写真がこちらである。

こちらは今回のシンガポール大会視察旅行をセッティングしてくださったJTBの辻井さんと支店担当の三井かなこさんの写真である。一見するとお二人ともとても楽しそうである。

しかし実は、旅行のプランニングから手配だけでなく急な予定変更や参加者の方の様々な要望に応えるために関係各所への交渉や連絡をひっきりなしにされていたらっしゃった。今回私たちがトラブルに見舞われることなく、楽しく旅行を終えられたのはJTBの方々の努力の賜物だと思っている。改めてご尽力いただいた辻井さんにお礼を申し上げたい。辻井さん、ありがとうございました。

今回、世界中のロータリアンが一堂に介した時間はとても貴重な機会であったし、岡崎ロータリークラブの皆さん、そしてご家族の皆様と楽しい時間を過ごさせていただきとても充実した旅行となった。酒井親睦委員長、同じく親睦委員の鈴木さんにも道中お気遣いいただき、さりげなくサポートいただいた。ご一緒いただいた皆さんには感謝の気持ちでいっぱいである。

まだまだお伝えしきれなかった楽しい思い出もあるが、これで私の拙い「2024年ロータリー国際大会シンガポール大会視察旅行記」は終わりだが、次回の国際大会はカナダ(カルガリー)、そしてその次は台湾(台北)、ハワイ(ホノルル)、フィリピン(マニラ)と続くそうである。今回ご参加された皆様と、そして今回ご参加されなかった皆様も次回機会がありましたら是非参加していただけたらと思う。

ご清聴ありがとうございました。

新会員卓話 梅村 友歩さん 「自己紹介」

今回は会社の紹介というよりは、私自身の紹介とさせていただきます。

出身は福岡県福岡市で生粋の博多っ子である。幼いころからサッカーの毎日で明け暮れ、勉強をきちんとした記憶がない。それでもサッカーを活かし中学2年生の時点で太宰府市にある私立筑陽学園

にサッカーの特待生として進学が決まっており、周りが中学3年生頃になると志望校へ進学するために必死に勉強しているのを横目に、私自身はかなり余裕を持った学生生活を送ることができた。高校ではスポーツクラスに在籍し、基本的には午前中の授業終了後、午後からは練習が始まるという感じで、一応進学校と呼ばれる学校であったが、私たちにに関しては全くあてはまらなかった。とは言え、高校3年生の冬の高校サッカー選手権で全国大会準優勝という成績を残し、母校の名前を全国に知らしめることはできたと自負している。

高校卒業後はJリーグもしくはヨーロッパへのサッカー留学への進路を希望していたため、高校在籍中にあった大学の推薦は全て断っていた。卒業ギリギリまでJリーグクラブからのオファーを待ったが、魅力的なオファーが無かった為、サッカー部の監督にヨーロッパへのサッカー留学を希望していることを相



談したところ、立場的に勧められないとのことで、代わりに大学の推薦入試の時期は終わっていたが特別に入学を許可していただける大学を見つけて頂き、サッカー留学の許可を条件として進学できた。

大学へは入学から夏休みまでの4ヶ月間のみ通い、その後休学届を出し、フランスへのサッカー留学が決まった。幸運にも現地では様々なチームでプレーすることができ、約2年間ヨーロッパのサッカーを経験し、その後日本のVファーレン長崎というプロサッカーチームからオファーを頂き、帰国した。しかし、自分の実力不足もあり、22歳のころ、自分の状況や将来を考え難しいと判断し、現役を引退することとした。

その後、サッカーでフランス留学中にお世話になった、南フランスのニースでレストランのオーナーシェフをしている方から働いてみないかという話があり、再渡仏することになった。しかもそのレストランが現地フランスのミシュランガイドで一つ星を獲得している高級フレンチで、フランス語を少し話せるという理由で初日からホールで働くこととなった。当然ながらきちんとしたサービスを提供できず、最初の1年はこれまでの人生で一番苦勞するとともに勉強もした1年であった。ただ、その苦勞があったからこそワインを知ることもでき、どんな苦勞も苦勞と思わない自分になれたと思い、そのオーナーが自分の人生の恩人であると思っている。

25歳になったころ、そのフランスの姉妹店となる東京の神宮前にあるレストランでサービス支配人のポジションに空きができたため、日本店への異動を命じられ帰国することとなった。その日本店も当時ミシュランで一つ星を獲得しているレストランで、今は少なくなったが約80席というかなり大きなレストランで、そこが昼夜満席となるような人気店で朝から晩まで働いた記憶がある。フランス時代とはまた違った意味で非常に貴重な経験をさせて頂いた。

そこで3年間働いた後、当時おつきあいしていた今の妻と結婚し、婿としてワインセラーウメムラに入った。結婚する前からワインセラーウメムラという店は知っていたが、実際に会社で働くと、世間からは同じようにワインを扱うということでレストランと似たような仕事と思われがちだが、実際には全くと言ってよいほど仕事の内容は違った。自分自身もソムリエの資格を持っているが、レストランで働いていた時のようにワインを売り、それをサーブするという作業をすることはなくなった。また、店舗はあるがインターネット販売がメインであること、直接お客様との会話より基本はパソコン上での作業やメールのやりとりが大半であるということである。

今もインターネットでの売り上げが約85%と多くを占めるが、それだけでは面白くないと思い、自分が会社に入りまじりしようとしたことは、もっと全国のお客様と対面で触れ合う機会を増やそうということであった。自分が入社以前はネットから入る注文に対し発送するというだけで精一杯であり、ましてやその繋がりがなかったため、そのような発想自体がなかったと思う。幸運にも自分はその部分に関してはレストランを含め、多くの方との繋がりがあったため、スムーズにその作業を進めることができ、今では地元岡崎以外では東京や大阪、福岡、遠くは沖縄の宮古島などでもお客様を招いてのワイン会を年に数回開くことが定例となっている。もちろん弊社から発信するワインの情報を見て購入することが通常であるが、全国的にはワインショップはどんどん増えており、同じ商品でも価格は様々である。社長である父はよく価格競争に走ったらワイン屋をする価値はないと言っている。安いから良いということではなく、ワインの保管状態や知識、配送方法、いかにお客様に寄り添った対応ができるかがインターネットでワインを売る一番のポイントである。

お客様から言われて一番嬉しいことは、ワインショップは全国にたくさんあるが、ウメムラさんでしか買わないと言われることである。今後、そのようなお客様をどれだけ増やせるかが自分の仕事だと思っている。もう少し細かく仕事の話を見せて頂くと、大体1日で約120件、本数で800本ほど出荷している。月平均すると約2万本ほど出荷していることになる。店としてのワインの在庫本数は約12万本、店舗を含むワイン倉庫を8か所有してワインを管理している。12月のピーク時には1日で2000本出荷する日もある。従業員が現在自分を含め14名、内、現場での出荷や梱包といった発送作業をするスタッフが8名、パソコン作業のみのスタッフが4名、自分はどのポジションにもつかず、雑用係といったところである。また、最近のワイン事情はワインに限ったことではないと思うが、仕入れ金額の高騰具合が凄

ということ。特にここ1年に限って言えば、仕入れ額が前年比10%以上あがっている。ただ、他の業界はわからないが、ワインだけに限って言えば、日本への入荷本数も減ってきていることの方が問題であり、価格の高騰よりもそちらの方が心配である。こんなことを言うと誤解されるかもしれないが、弊社が取り扱っているワインは比較的高级と言われる金額のワインが多く、いままで10万円のワインを購入していた方がそのワインが12万円になったから購入を控えるということはない。そのため、自分の考えは以前とあまり変わりなく値段がどうこうというよりも、ワインの管理を徹底することの方が重要と考えている。

以上で簡単ではあるが自己紹介と会社紹介を終わる。まだまだ未熟者であるため、今後も多くの経験をされている皆様から沢山のことを学ばせて頂ければ幸いである。ご静聴、ありがとうございました。

Weekly Report 【2024年6月12日】

[会長報告]

1. 6月7日（金）ロータリー財団委員会新旧全委員会がラグナスイート NAGOYA にて開催され地区補助金委員会 加藤博巳副委員長と地区資金推進委員会 宮田勇人副委員長が出席されました。お疲れ様でした。
2. 6月7日（金）第4回岡崎5RC会長・幹事会がみなみで開催され、酒部圭司会長エレクト、石川敏郎副幹事、谷泰男幹事、私が出席いたしました。お疲れ様でした。
3. ロータリー日本財団より大久保稔さんに第1回マルチプル・ポールハリス・フェローピンが届きましたのでお渡しいたします。
4. 誠に残念ですが会員の古澤武雄さんが退会されます。ご挨拶をいただきます。
5. 先ほど事務局に会員の河野治生さんがご逝去されたご連絡がございました。詳細は追ってお知らせいたします。

[幹事報告]

1. 6月7日（水）に開催されました合同理事会報告です。以下の件が承認されました。

【審議事項】

- ① 新会員委員会配属の件
- ② 新会員候補の件
- ③ 会員退会の件
- ④ 一泊親睦家族旅行決算について
- ⑤ 11クラブ親善スポーツ大会決算報告の件
- ⑥ 前会長・前副会長・前幹事慰労会の件
- ⑦ 2024-25年度会計予算書の件
- ⑧ 例会へのリモート参加の出席取扱いの件
- ⑨ 例会時のクールビズの件
- ⑩ 2024-25年度委員会構成表の件
- ⑪ 年間行事予定の件
- ⑫ WASHプロジェクト寄付金203,000円の取扱いの件

理事会議事録は毎月作成しております。事務局に保管をしてありますのでご覧になりたい方は事務局へお申し出ください。

[次年度幹事報告]

1. 7月3日（水）例会後13時40分から岡崎ニューグランドホテルにて第1回理事会が開催されます。
次年度役員・理事の方はご出席をお願いします。

[委員会報告]

- ① メークアップについて・・・例会委員会 蜂須賀大委員長
- ② 国際大会請求書について・・・親睦活動委員会 辻井郁大委員
- ③ 前会長・前副会長・前幹事慰労会 案内・・・次年度親睦活動委員会 菅井竜司委員長

6月26日（水）例会のご案内：場所 岡崎ニューグランドホテル

「一年を振り返って」 同前 仁史 会長

岡崎ローターアクトクラブご案内：6月20日（木）最終例会

※他クラブサイン受付情報

- 6月20日（木） 岡崎東RC 11：30～12：30 岡崎市竜美丘会館
- 6月20日（木） 西尾一色RC 11：30～12：30 一色町商工会館
- 6月21日（金） 安城RC 11：30～12：30 碧海信用金庫本店3階
- 6月21日（金） 西尾KIRARAR C 11：30～12：30 西尾信用金庫中央支店2階
- 6月26日（水） 知立RC 11：30～12：30 ホテルクラウンパレス知立5階